

ふれあい

京都府立城陽支援学校PTA会報

第1号 平成26年6月25日

平成二十六年PTA総会

五月十日(土)に平成二十六年PTA総会が開催されました。御多忙の中、多数の会員の皆様に参加いただき、ありがとうございました。総会は、左記の内容で滞りなく進行し、各種議案について皆様に承認をいただきました。御協力いただき、誠にありがとうございました。



総会の様子

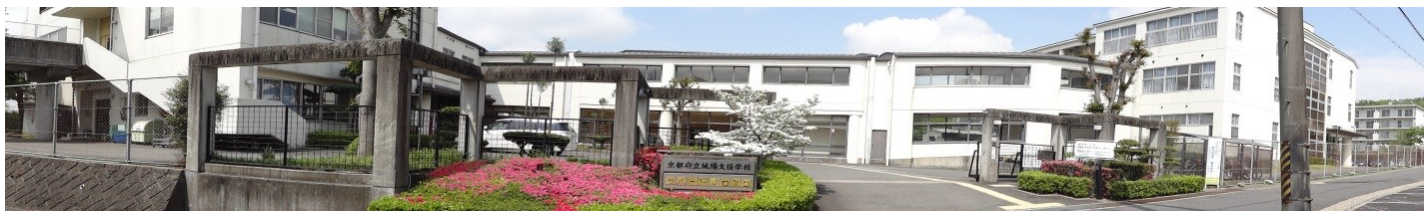
二十六年度の事業計画にもとづいて、新役員一同、協力して取り組んで参りますので、会員の皆様の御協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

- 1 開会挨拶(前PTA会長、学校長)
- 2 議長選出
- 3 平成25年度事業報告
- 4 平成25年度会計決算報告
- 5 平成25年度会計監査報告
- 6 平成25年度役員退任挨拶
- 7 PTA規約並びに細則の改正
- 8 平成26年度新役員の選出
- 9 平成26年度PTA会長挨拶
- 10 平成26年度事業計画提案
- 11 平成26年度会計予算案提案
- 12 議長退任

学校長からは、冒頭、昨年度の通学高等部生徒の卒業後の進路先についてほぼ100%の進路達成を報告されました。しかし、高等学校の求人数と就職希望者の割合から考えると、特別支援学校の現状はなお厳しく、教師が進路先を開拓するいわゆる「足で稼ぐ」地道な取組についてお話しがありました。



企業就労という進路の実現のためには、子どもを伸ばし、力をつけなければならぬ。保護者の皆様に、子どもの様子をよく見て、「返事」「挨拶」などしっかりできていることに対してほめてあげてほしい。そういった積み重ねが習慣となり、企業就労に結びつく力になると話されました。最後に、保護者の皆様に一番多く足を運んでいただいたことに喜びを話され、子ども達に力をつけていきたい、教育活動に理解と協力をお願いしますと締めくくられました。





PTA会長 横尾 純二

皆さんこんにちは。お忙しい中PTA総会にご出席くださりまして、ありがとうございました。25年度に引き続き、26年度も会長をさせていただくことになりました横尾です。

前年度は、役員並びに会員各位そして学校の先生方の御協力で無事につとめることができました。今年度も皆様に色々ご意見をいただき、一人一人のご負担ができるだけ少ない活動で、よりよい成果を出せたらと思います。どうぞお力を貸していただきますようご協力をお願いします。

新役員体制

会長	横尾 (高等部3年)
副会長	中島 (高等部2年)
副会長	東 (高等部2年)
会計	西村 (高等部2年)
会計	宮崎 (高等部2年)
庶務	中村 (高等部3年)
支援部	早藤 (高等部2年)
	西野 (高等部2年)
	空田 (高等部2年)
	辻 (高等部1年)
研修部	種藤 (高等部1年)
	長田 (高等部1年)
	浦山 (高等部3年)
	尾崎 (高等部1年)
広報部	池田 (高等部3年)
	三宅 (高等部1年)
	田中 (高等部2年)
	北川 (高等部1年)
	蓑原 (重心小6年)
	笹山 (総括主事)
	西野 (総括主事)
	田淵 (総括主事)
	村田 (副校長)
	杉本 (事務長)

PTA環境整備の取組

七月五日(土) 第二回役員会・通学路清掃
を予定をしています。

「一年のはじまりにあたって」

平成二六年度、広報部を担当いたします池田と申します。よろしく願います。

新田辺駅周辺の商店街にはツバメの巣がたくさんあり、親ツバメが子育てする場面や子ツバメの成長を観察することができます。六月に入って巣立ちが目立つようになりました。

高校生活を終える子供たちにも「巣立ち」があるとするば、親としてどんなサポートができるのか、子育て熱心な親鳥の姿から学ぶことは多いように感じています。

本能のみで子育て(養育行動)ができると考えられてきたマウスでの研究報告では、仔と接する経験により神経ネットワークが変化していくことが、養育行動に重要な役割を果たすことが示唆されています。霊長類の養育行動には、さらに環境が大きく影響するとも述べられています。

「子育て」に悩みがちな私の場合、子供と接する「ふれあい」の機会が不足しており、子育て神経があまり発達していないのかもしれない。本紙タイトルも「ふれあい」です。科学的な意味も解明されつつある「ふれあい」の機会を増やしていきたいと思っています。

